

特別支援学校 学校評価一覽表 ① (令和3年度版)

(様式1)

羅 針 盤			関連の 分掌	方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 児童生徒は充実した学校生活を送っていますか。	児童生徒が充実した学校生活を送っている。(目標値100%)	教務部	個別面談や学校行事等の機会や連絡帳で保護者からの話や意見を聞き、児童生徒にとっての学校生活がよりよいものになるようにしていく。	A	A	学校と家庭との情報共有や共通理解は、児童生徒の指導において欠かすことのできないものであることを、一人一人の教員が改めて認識する。			
		保護者は、学校からの各種たよりや毎日の連絡帳によって、学校の教育活動の様子を理解している。(目標値100%)		各種たよりや連絡帳を書く際は、内容や表現等に十分気を配り、分かりやすく丁寧な情報伝達を行うようにする。また、複数の目で記述内容を確認し、内容の過不足や表現による誤解等が生じないように留意する。	A	A	情報を受け取る側の視点にも留意しながら、学校からのたよりや連絡帳の文章の内容や表現が適切なものとなるようにする。また、分かりやすく丁寧な情報伝達が行えるように、改めて、一人一人の職員が充分気を配っていく。			
	学校から出す通知や一斉連絡メール、電話連絡等により、学校からの様々な連絡が保護者に確実に届いている。(目標値100%)	一斉連絡メールを活用する場合には、受信できない保護者への対応(電話連絡等)の実施確認を誰が行うのかを明確にし、連絡の不備が起らないようにする。		A	A	通知や連絡をするタイミングや時期にも配慮し、学校からの通知や一斉メール、連絡帳等により、様々な連絡が保護者に確実に届くようにしていく。				
	3 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	居住地校交流について、実施した保護者は、子どもにとって有意義な活動であったと感じている。(目標値100%)	相談支援部	居住地校交流を実施する場合には、相手校との打合せを丁寧に行い、子どもたちの実態に合った、有意義な活動が行えるように計画する。終了後、相手校とは総括を行うとともに、保護者とは、活動の様子や評価等について情報共有を行うことで、よりよい交流につなげる。			居住地校交流については、2学期以降に計画をされているものが多く、第1回のアンケートの時点ではまだほとんど実施されていないため、第2回のアンケートで評価をする予定。			
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	4 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	地域の幼保、小、中学校からの特別支援教育に関する相談や指導・支援、研修会への講師要請に対応したり、授業公開・研修会を行ったりして、地域における特別支援教育の中核校としての役割を十分に果たしている。(目標値100%)	相談支援部	特別支援教育に関する地域からの相談にきめ細かく対応するとともに、校内の各係とも連携しながら、授業公開や研修会の案内を地域に発信する。また、職員の専門性を高められるよう、指導上気付いたことは、係が中心となってアドバイスし合う。	B	A	外部アンケートからは、高い評価を得ることができた。今後も、地域からのニーズに的確に応えられるよう、専門性の向上に努めるとともに、きめ細やかな対応を心がけていく。 校内においては、特別支援教育に関する専門性の向上のため、他の係とも連携し、校内支援を行うことで、一人一人の専門性の向上を図るよう努めていく。			
III 児童生徒一人一人の実態に応じた、適切な指導をしていますか。	5 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	保護者は、個別の指導計画の目標設定やその手立て、達成状況に満足している。(目標値100%)	学習指導部	職員に個別の指導計画の目標や手立てなどを作成するための資料を配布したり、説明したりする。また、必要に応じて作成のための学習会を開く。	A	A	2学期以降も個別の指導計画を事前に配付し、学習の様子に合わせて、目標や手立てを説明する予定。保護者の目線に合わせた説明を心がけていく。また、保護者に対して根拠をもった説明ができるように努めていく。			
		授業や指導の場面でタブレット端末を活用することに努めている。(目標値100%)	情報部	タブレット端末の活用方法について指南したり、学習会を開いたりすることで、積極的な活用を促していくと共に、機器の管理方法についても示していく。	A	B	児童生徒の学年が低い程、活用している場面が少ない実態が見受けられる結果となった。子どもに使用することに抵抗がある場合は、まずは教師が活用できるように、ICTスキルが身に付く研修や事例紹介を行い、活用への意識が高められるようにする。			
IV 特別支援教育の専門性の向上に努めていますか。	6 校内研修等を計画的に実施し、特別支援教育の専門性の向上に、学校全体で取り組んでいますか。	学習会や公開講座等で得られた知識や技術を生かし、指導内容や指導方法の改善に繋げている。(目標値100%)	研修部	教員のニーズに応じて、授業や指導方法、教材・教具に関する学習会や公開講座を計画し、新しい知識や技術を得て指導力の向上を図るようにする。			今年度は、第1回のアンケートの時点ではまだ実施されていないため、第2回のアンケートで評価をする予定。			
		今年度、校内全体で取り組んでいる授業改善について、教職員それぞれが十分な成果をあげることができている。(目標値100%)		学習指導要領を活用した指導案を作成して改善授業を行ったり、教員がビデオ視聴等を通してお互いの授業を参観・検討したりすることで、日々の授業の質を高めるようにする。		A	児童生徒の実態に、より即した学習を進められるように、研修を通して指導内容を充実させたり、個別面談や連絡ノートで保護者と学習に関する共通理解を図ったりしていく。			

特別支援学校 学校評価 一覧表 ① (令和3年度版)

(様式1)

羅 針 盤			関連の 分掌	方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
V 児童生徒の健康の増進に努めていますか。	7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	児童生徒の健康の増進について、家庭訪問、個別面談、電話連絡、連絡帳、各種たより等を通して情報交換を行い、早急かつ適切な対応している。(目標値100%)	保健給食部	家庭訪問や個別面談、電話連絡、日々の連絡帳で保護者との情報交換を行い、教員間の連絡を密にし、迅速な対応をする。必要に応じて、全職員に情報を周知して、必要な配慮を行う。	A	A	今後も保護者との情報交換を密にし、児童生徒の健康の増進に努めていくとともに、迅速、適切に対応できるように職員間で連携を図りながら、学校全体として対応をしていく。			
		危機管理対応マニュアルを理解し、児童生徒にけが等の緊急事態が発生したとき、適切な対応をとることができる。(目標値100%)		マニュアルの「1けが等の緊急事態への対応マニュアル」を教室に掲示し、様々なケースを想定した緊急事態対応訓練などを通して理解を深めていく。	A		2学期には緊急事態対応訓練を実施することに合わせて、教室掲示用マニュアルの一部改訂を行った。全体に周知し、全職員で確認を行うとともに、緊急事態対応訓練の際にも再度確認を行い、理解を深めていく。			
VI 安全な学習環境の確保に努めていますか。	8 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	校内の施設設備を点検して安全を確保するとともに、美化活動に十分、努めている。(目標値100%)	管理部	毎月、確実に安全点検を実施し、修繕箇所などがあれば早急に対応する。火曜日、金曜日の朝清掃を朝会終了後に呼びかけ、全教職員で校内美化に取り組むよう周知していく。	A	A	自己評価、保護者アンケートともに100%と良い結果であった。今後も引き続き、毎月安全点検を行い、修繕箇所等を把握した際には、早急に対応をしていく。また、片付けや清掃を継続し、校内の美化活動に十分努めていく。			
		危機管理対応マニュアルを理解し、地震、水害等の自然災害が発生したとき、適切な対応をとることができる。(目標値100%)		避難訓練などの際、当日の朝会などで危機管理対応マニュアルにある対応策を再確認し、全教職員で理解を深めていく。	A	A	今後も引き続き、職員全員が危機管理対応マニュアルを理解し、地震、水害等の自然災害が発生したとき、適切な対応をとることができるように職員間の連携を深めて対応していく。			
VII 将来の生き方に結びつく進路指導を行っているですか。	9 保護者、関係機関との連携をもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	保護者に対し、学校から提供されるキャリア教育に関する情報を伝え、児童生徒の将来について十分な話し合いを行っている。(目標値100%)	進路指導部	発達段階に応じた自己肯定感を高めるキャリア教育について保護者へ十分な情報が伝えられるよう、キャリア教育通信を発行したり、職員研修を開催したりする。		A	2学期からは、キャリア教育に関する役に立つ情報が提供できるように努めていく。			
		10 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。		キャリア教育の視点を踏まえて、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成したり、授業づくりを行ったりしている。(目標値100%)	A	A	2学期からは、キャリア教育の視点を踏まえた学習内容の情報をキャリア教育通信などで積極的に提供できるように努めていく。			
VIII 関係機関との連携が円滑に行われるように努めていますか。	11 保護者、地域、関係機関と学校との連携が行われていますか。	P T A活動(行事等)が十分なものとなっている。(目標値100%)	渉外部	各活動において、職員と保護者に活動内容を周知し、活動後にはアンケート結果を含めた記録を提示する。			対象となる学校行事はすべて2学期以降に予定しているため、第2回のアンケートで評価をする予定。			
IX 児童生徒の生活上の課題を把握し的確に対処していますか。	12 個に応じたきめ細やかな指導を行っていますか。	「学校いじめ防止基本方針」について、保護者に示し協力を得ている。(目標値100%)	生徒指導部	「学校いじめ防止基本方針」について通知をする。(Webページを含む)		A	今後も引き続き、いじめや問題行動等に対する対応や取組ができるよう家庭と学校が連携して安心安全な学校に努めていく。			
		いじめや問題行動に対して、十分な取組や対応ができていく。(目標値100%)		児童生徒情報交換や報告・連絡・相談の徹底、記録(データベース「問題行動報告書」)をする。いじめ認知の保護者や教職員への啓発、「いじめの認知実態調査」により全職員で情報共有し対応する。	A	A	2学期も生徒指導の研修を継続しながら、職員間の連携が図れるように努めていく。			